

子育てと子育て支援の科学

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 人間関係学科 教授 上野 有理

研究分野 : 発達心理学、比較認知科学

核家族化が進むなか、ひとり悩む保育者は少なくありません。子育て・子育て支援のためには、子どもの発達や保育者の気持ち、保育現場の現状を、科学的な視点から捉えることが大切だと考えます。そのために、おもに乳幼児期の母子に協力をいただいて実証研究をおこなっています。子育て応援ラボ「うみかぜ」を拠点にしたさまざまな活動により、子育て・子育て支援の実践や方法論の開発に寄与することをめざします。



■子どもの発達を知る：キーワードは「食」

子どもの食発達を研究しています。子どもの食をいかにすすめるかは、日々の保育において重要な課題です。どのような環境で子どもはよく食べるのか、周りの人と食をめぐってどのように関わるのかに、とくに注目してきました。

子どもの食は、他者との関わりを前提としてはじまります。大人だけでなく、子ども同士の関わりも大切です。日々繰り返されるそれらの関わりをとおして、子どもは食習慣を身につけていきます。大人の食習慣を理解するうえでも、発達の視点は大切です。

周りの人が深く長く子どもに関わりつづける食のスタイルは、人間に固有です。こうした食の特徴は、人間の進化と深く関わっているといわれています。子どもの食発達を理解することは、大人の食、そして人間を知ることにもつながります。「発達」と「進化」の視点から人間の本質を理解し、社会での実践につなげることをめざします。



食物を介し、母子は発達に応じたさまざまなやりとりをする。

■保育者の気持ちを知る

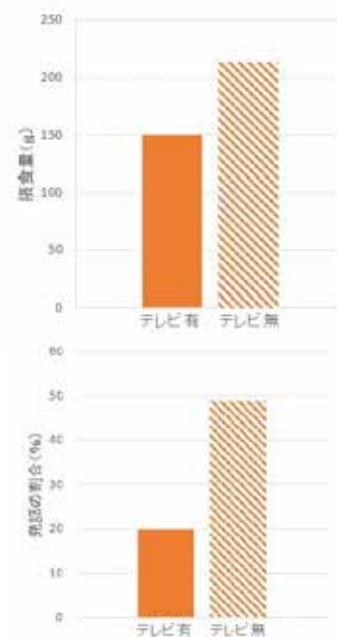
子育て・子育て支援のためには、保育者の気持ちに寄り添うことが大切だと考えています。保育に関わる思いは人それぞれです。その違いが生まれる背景を科学的に理解することで、保育者一人ひとりに寄り添う支援の形を模索します。

■保育の現場を知る

保育や学校関係者、保護者の方を対象に、勉強会や講演をしています。人間の子どもの成長には、とても長い時間がかかります。その成長を親だけで支えるのは難しく、進化の視点から見ると、コミュニティで協力して保育をするのが人間のスタイルです。現代の保育はどうでしょうか。保育の現場を知り、意見を交換する機会を大切にしています。

【文献】

上野有理・竹下秀子. (2017). テレビを視聴しながらの食事が幼児の食行動に与える影響. 小児保健研究, 76, 625-639.



食事時にテレビ視聴があると、摂食量が減り、子どもからの自発的な発話が減る(小児保健研究, 2017より作成)。